

蘆溝橋事件の真犯人は誰か

この西安事件の翌十二年七月七日に蘆溝橋事件が起こるのです。この事件は日本の教科書に「どこからか銃弾が飛んできた。その時一人の兵士が行方不明になったため、日本軍は発砲を始め、攻撃に転じたので支那事変へと発展した。」とあります。これはとんでもない誤りです。誰がやったのか。もちろん中国共産党です。

七月七日夜、不法射撃を受けたのは日本軍の清水中隊でした。清水中隊は夜間演習をしていたのです。話は少し飛びますが、日本軍がよその国の北京近くで演習をしていること自体が侵略ではないかと言う人がいますが、これは歴史を知らない者のたわ言です。先に義和団事件についてお話しましたが、あの時西太后は降伏後八カ国と講和条約を結びます。その時の約束としまして、居留民保護のために居留民のいる国は、その国の軍隊をシナに駐屯させることを約束したのです。日本だけでなく、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス等も軍隊をシナに駐留せしめていたのです。何の違反でも侵略でもないのです。

さて、その夜、発砲を受けた清水中隊は、一木大隊長の命令がなければ撃ってはいけなないと、実に七時間も隠忍自重したのです。その間三回も撃たれています。三回目によく応戦したのです。これがどうして日本の挑発と言えるでしょうか。中央でも三個師団を出動させようとするのですが、現地で調停中だから待つべきであると、やはり二回自重しています。七月七日の夜の撃たれた時の清水中隊の状況ですが、兵隊は鉄兜を持っていませんでしたし、実弾は各人三十発だけ万一に備えて持っていました。これは厳封して箱に詰めたままで、射撃はもっぱら空砲でありました。とても戦闘しようという部隊の様子ではありません。その翌日、中国共産党は中国中の新聞や団体に檄をとばして「北京が危ない、日本が立ち上がった。我々は戦うんだ、準備しろ。」といった檄文を電送します。七日の夜事件が起こったのに、八日の朝にはすでにこのような行動に出ているのです。実に手際がよすぎるとは思いませんか。この日のために前もって準備していたとみるべきでしょう。

もう一つ証拠を挙げましょう。葛西純一という中国共産党にも籍を置いた人がいますが、この人が中国共産軍の「戦史政治課」と言う共産党の教科書にはこう書いてあると言っています。「劉少奇指揮の下に抗日救国青年隊が決死的に中共の指令に基いて実行した」と。かつて國務大臣（当時）の奥野誠亮氏が「ライシャワー博士も、

蘆溝橋事件はいずれともはっきりしない、つまりどちらが先に発砲したか分からない、と書いている。わたしもそう思う。」と発言しました。その結果、「どちらが先か分からない」と言っただけで大臣を追われてしまいました。「日本が先に」と言わなければいけないのでしょうか。冗談ではありません。明らかに中国が先に発砲したのです。ですが、新聞も外務省もこのことをはっきり言いません。

南京事件もそうです。何の根拠もないのに左翼の学者や一部の新聞が「やった、やった」と騒ぎ立て、それが一つの流れとなって、ついに三十万人殺したという作り話が本物になり、日本の教科書にも載るようになってしまったのです。そして御丁寧に日本社会党の代議士達が行って「三十万人殺された記念館を建てなさい」と勧めたのです。そのときに、社会党の元委員長田辺氏が中国の要人に「南京虐殺を含めて日本は個人賠償をすべきである」と言っています。何兆円もの賠償ですよ。日本人の中には日本人のくせに中国の言う通りに洗脳されて、日本人の悪口を言って歩く人が大勢います。これらの人達の勢力というか発言力が、細川元首相の「侵略発言」や国家謝罪決議にまで発展したのです。

いずれにしても、①七月八日の朝すでに開戦を主張する共産党の檄文が全国に撒かれたこと、②共産党の教科書にもすでに載っていること、③蘆溝橋事件五十周年の昭和六十二年に、中国は七・七事件の書籍を出版しており、これにも共産党の策略が成功したといった内容が書かれていること等々、これからみて、どちらが仕掛けた事件かは明々白々であります。

さて、次項以降では、日米交渉の歴史と、なぜ真珠湾攻撃となったかについて述べます。また日本の軍隊が東南アジアに進出しますが、これがどのような状況下に行われ、現地の人々がどのように歓迎したかを述べます。日本の三年半の軍政の間に日本軍は青年に民族意識を植えつけ、軍隊を作ります。これがアジアの相次ぐ独立につながるのです。例えば、インドネシアでは「ムルデカ」即ち「独立万歳」が国民の間に拡まります。インドでも同じです。チャンドラ・ボースは「デリーへ、デリーを目標せ」を合言葉にして進んで行きます。戦争には敗れましたが、インド独立軍は戦後も祖国インドで結束して、イギリス軍に反抗し、独立を実現させるのです。

インド国会議事堂の正面にはチャンドラ・ボース、右にガンジー、左にネールが掲げられています。このインド独立の最高功労者チャンドラ・ボースを助けたのが日本です。何でこれが侵略なのでしょう。